

エ | ネ | が | お 6

～エネルギーをつなぐ現場の素顔～



電力ネットワークカンパニー
資材部 購買契約グループ
高崎 悠介

相手は、何を求めているのか？
自分だったら、どう考えるのか？
それが、資材調達の仕事で
常に意識することです。

撮影場所 / 東海コンクリート工業株式会社

資材部 購買契約グループは、電力ネットワークカンパニー(以下、NWCP)内で必要な資材を、中長期的な物量を把握して、いかにコストを抑えながら購入するかを検討し、調達することが主な業務になります。
その中で私は、配電部門を担当しており、主に電柱としておなじみのコンクリート柱をはじめとしたコンクリート製品、グループ会社から譲り受ける配電製品などを調達しています。
NWCPで扱う資材の物量は非常に多いため、資材調達の業務は、そのやり方次第で、大きなコストダウンを図ることができる、やりがいと責任の大きい仕事です。

小学生から大学生までラグビーを続けており、当社でも中部電力ラグビー部に所属しています。日々、仕事とラグビーの両方で活躍できるよう奮闘しています

2020年4月に、中部電力が分社化する中で、安定供給という使命を守りながら、資材部としてどうすれば質の良い製品を安く安定的に調達するかは、大きなミッションです



これまでのやり方に縛られず新しい効率的な資材調達を考え実行することを心掛けています

01 相手の立場に立つためには 相手をよく知る

資材調達の際には、メーカーの経営状況や現場の状況など、価格だけではない情報をリサーチすることで、相手の立場が理解でき、より円滑な交渉ができます。
これは入社当時、営業所で高圧契約の担当をしていた頃に、法人のお客さまと日々お話していた経験が、今の自分の武器になっていると思います。
交渉は、最も難しい業務の一つですが、相手の置かれている立場を考え、真摯に取り組むことで、乗り越えられると思っています。



02 ニーズに応えるだけでなく 自分なりの視点も大切にする

資材の調達では、資材を実際に使う配電部門が、なぜその資材を必要とするのかをしっかりと理解するコミュニケーション力が、とても重要になります。
当社の重要な資産となる配電資材を調達する立場として、部門のニーズをただ汲み取るだけでなく、より広い視点で、最適な資材選びや運用方法を検討して、資材調達することも自分の役目だと考えています。



自分のポジションは、スクラムハーフ(9番)と言って、フォワードから受け取ったボールを素早く丁寧にバックスに渡すことが求められる役割です。

03 ラグビーを通じて学んだ コミュニケーションの基本

ラグビーは15人構成と、他のスポーツに比べて、人数が多いスポーツでありながら、一つのボールを前に投げることなく進めるルールのため、チームの意思疎通がとても重要になります。
「自分の意見を発信すること」と「相手はどう考えているかを想像すること」は、ラグビーにおけるコミュニケーションの基本。この姿勢は、今の仕事においても、自分が大切にしていることの一つです。



ラグビーから、とても多くのことを学びました。今の自分があるのは、ラグビーのおかげです

04 時間を有効活用することを 常に考え続けてきた生活

小学生の頃からラグビーを続けてきたことで、練習時間を確保するためには、限られた時間の中で、勉強も遊びもどれだけできるかをずっと考えてきました。
仕事をしながらラグビー部の活動をする今でも、それは変わりません。メリハリをつけて、いかにパフォーマンスを上げられるかを、常に考えています。

今年は、9月から日本でW杯が開催されます。日本でもラグビーがますます盛り上がることを期待しています



引留クランプカバー
電線(高圧線)の引留めに使用するクランプの絶縁処理として使用します。

高圧中実碍子 (こうあつちゅうじつがいし)
電線(高圧線)と電柱を支持するための腕金などに取り付け、電線との絶縁として使用します。

腕金(うでがね)
柱上変圧器などの設備の取り付けや、電線(高圧線)の支持として使用します。

電柱に取り付ける資材
資材調達する配電資材の多くは、電柱に取り付けられる資材です。

電力ネットワークカンパニー 資材部のエネがお

<input checked="" type="checkbox"/> name	<input checked="" type="checkbox"/> department	<input checked="" type="checkbox"/> entering company
高崎 悠介	電力ネットワークカンパニー 資材部 購買契約グループ	2014年(入社6年)
<input checked="" type="checkbox"/> work	出身は京都で、大学は東京。名古屋には入社するまで縁はなかったのですが、電気という「なくてはならないもの」に携わる仕事をしたいという思いが強く、当社に入社しました。	